

Artificial Bee Colonyアルゴリズムによるサポートベクトルマシンのハイパーパラメータ最適化

2131007 安達拓真

千葉工業大学 情報科学部 情報工学科 4年

2024年9月3日

はじめに

- 機械学習にはハイパーパラメータがある
 - ▶ 手動での調節は時間を要する
 - ▶ 自動調節のための手法が提案されている
- サポートベクトルマシン(SVM)における自動調節
 - ▶ Artificial Bee Colony(ABC)アルゴリズムを適用した研究
- 本研究ではカーネル関数も最適化対象とする
 - ▶ SVMの分類精度向上を図る

サポートベクトルマシン(SVM)

- 機械学習アルゴリズムの一つ[1]
 - ▶ 主に分類問題に使用される
- カーネルトリックを使用して、非線形データを高次元空間に写像し、線形分離可能にする
- データを分類する最適な境界線(超平面)を探す

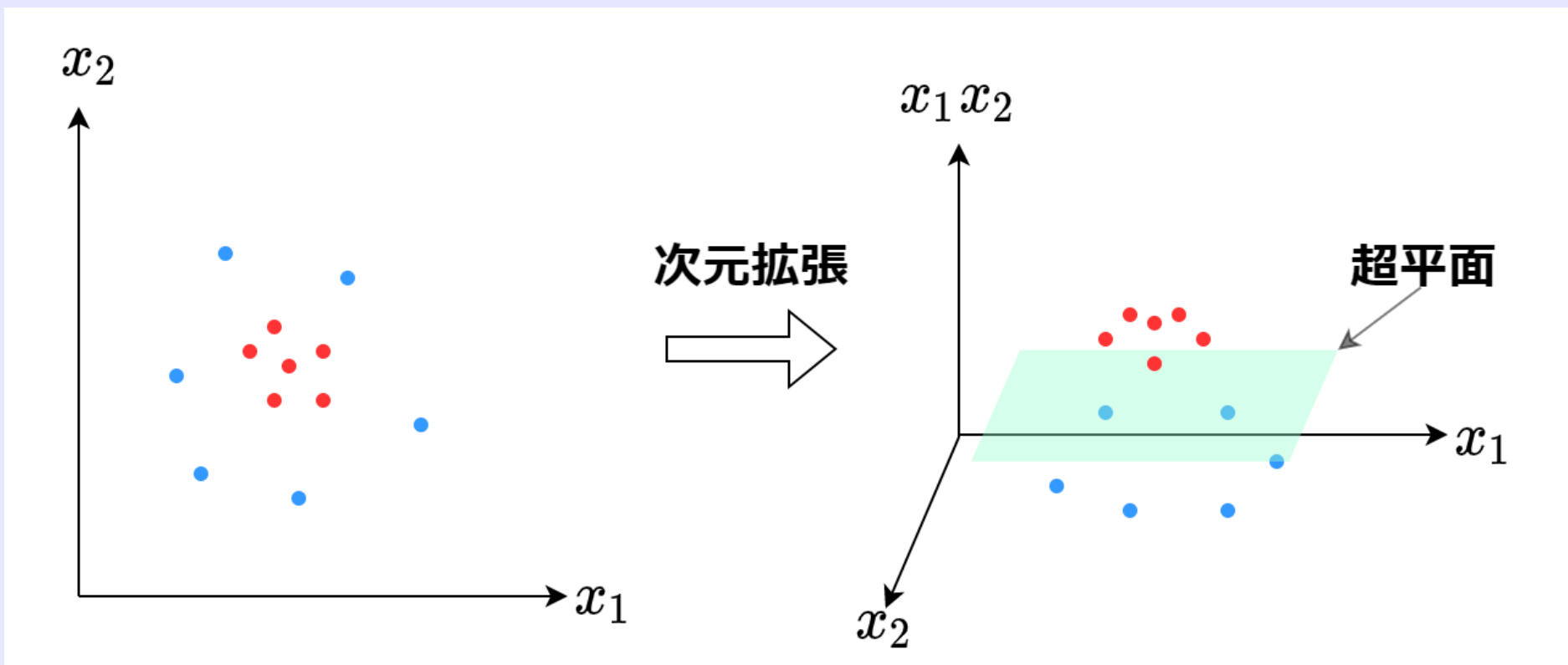


Figure: 高次元空間への写像の例

ハイパーパラメータ最適化(HPO)

- 機械学習の性能を最大限に発揮するには適切なハイパーパラメータの選択が必要不可欠
- 手動で経験的に決めることが多い
 - ▶ 自動で調節する研究が行われている
- HPOは一般的に計算量が多い
 - ▶ 効率的なパラメータ空間の探索が必要
- ハイパーパラメータの性質は様々
 - ▶ 離散値
 - ▶ 連続値
 - ▶ カテゴリ変数

Artificial Bee Colony(ABC)アルゴリズム

- 蜂の採餌行動に着目した最適化アルゴリズム[2]
- 働き蜂、追従蜂、偵察蜂の三種類の蜂によって各個体(食物源)の探索を行い、最適解を求める
- ABC自体の設定パラメータは少ない

先行研究

- SVMのハイパーパラメータの最適化とデータセットの特徴選択にABCを適用[3]
 - ▶ カーネル関数はガウスカーネルに固定

問題点

- カーネル関数を1つに固定している
 - ▶ カーネル関数には様々な種類がある
- カーネル関数によってハイパーパラメータは異なる
 - ▶ ハイパーパラメータ空間の探索範囲が限定的

提案手法

- 4つのカーネル関数とそのハイパーパラメータも最適化対象とする
 - ▶ 探索範囲を広くし、より最適なSVMモデルの探索を可能にする
- 最適化アルゴリズムはABCアルゴリズムを利用
- 解は5次元のハイパーパラメータの組で表す
 - ▶ (カーネル関数, C, gamma, coef0, degree)
- ハイパーパラメータの扱い
 - ▶ gamma, coef0, degreeの3つはカーネル関数によって異なる
 - ★ カーネル関数によって取捨選択する
 - ★ 選択されたパラメータのみを更新の対象にする
 - ▶ degreeは整数値なので四捨五入して扱う
 - ▶ カーネル関数は4種類の値をとるカテゴリ変数
 - ★ 整数にエンコード
 - ★ 更新はランダムに選ばれた個体とのルーレット選択

$$P = \frac{f(x_j)}{f(x_i) + f(x_j)}$$

今後の予定

- プログラムの実装
- ライブラリデフォルトのパラメータと提案手法で最適化したパラメータの比較
- 既存研究との比較

参考文献

- [1] Cortes, C. and Vapnik, V. Support-vector networks, Machine Learning, Vol.20, No.3, pp.273-297, 1995.
- [2] Karaboga, Dervis. An idea based on honey bee swarm for numerical optimization. Vol. 200. Technical report-tr06, Erciyes university, engineering faculty, computer engineering department, 2005.
- [3] 近藤 久, 浅沼 由馬 “人工蜂コロニーアルゴリズムによるランダムフォレストとサポートベクトルマシンのハイパーパラメータ最適化と特徴選択”, 人工知能学会論文誌, vol34-2, pp.1-11, 2019.